

入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

今月の回答者
砂原秀樹、菊地宏明、滝川雅巳

【アドバイザー】砂原秀樹
奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDE プロジェクト・ボードメンバー

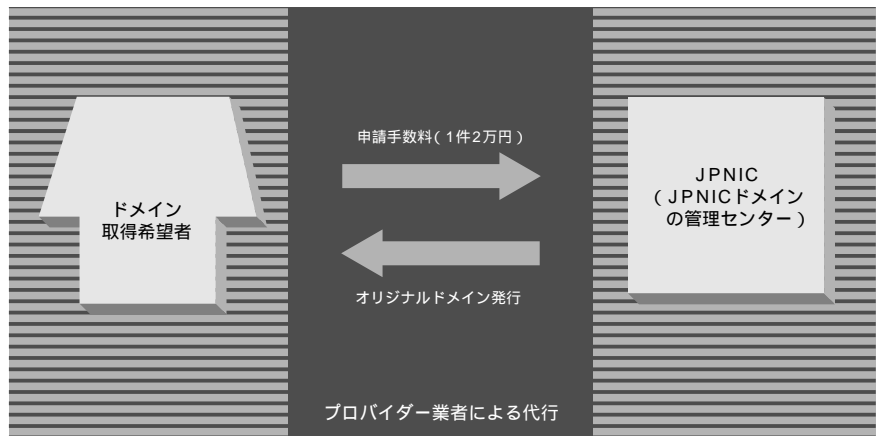
このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

会社でホームページを作ることになったのですが、プロバイダーと契約する際、ドメイン名に自社名を付ける独自ドメイン WWW サービスというものを利用しようと思っています。ただ、もしプロバイダーを変更した場合、そうして取得したドメイン名を引き続き使えるものかどうか、わかりません。実際にはプロバイダーに手続きを代行してもらうにしても、自社が申請して登録したドメイン名ですから、おそらく引き続き使用できるものだと思っていますが、上司にきちんと説明できるだけの裏付けがありません。本当のところはどうなのでしょう。（匿名希望）

図 1 独自ドメイン取得代行付きレンタルサービスのしくみ:プロバイダーでは、あくまでも手続きを代行するにすぎず、ドメインは申請者の所有となる。



いるが、ホームページのサーバーは、プロバイダーが用意するマシンを用い、それに組織が持つ同じドメイン名を付ける場合。

組織はインターネットに接続されていないか、独自のドメイン名を持っておらず、ホームページのサーバーはプロバイダーの用意するコンピュータを利用し、そこだけに独自のドメイン名を付ける。

といったケースが考えられます。質問では、または の場合ではないかと思いますが、 の場合も含めていずれの場合も問題になるのは「ドメイン名は誰のものか」ということでしょう。

ここで問題になってくるのは、どの形式のドメイン名を利用したいのかです。日本の組織の場合、通常はトップレベルドメイン名としてjpを使ったドメイン名を利用することになると思います。たとえば、foo.co.jp というドメイン名を取得して、www.foo.co.jp という名前のサーバーを設置することなどだと思います。

さて、このドメイン名ですが、管理しているJPNICでは、今のところ、ある組織が持つドメイン名は原則として（このあたりが微妙なのですが...）1つに限定されています（ne.jp ドメイン名は例外的1つです）。

A. この質問にはさまざまな事柄が含まれていて混乱しそうなので、1つ1つ質問にお答えしたいと思います。

まず、このホームページのサーバーはどこに設置するのでしょうか? 可能性としては3つあります。

組織内に設置されたコンピュータでホームページのサーバーを動作させる場合。

組織にはインターネットが接続されており、独自のドメイン名を持って運用されて

表 1 com ドメインの取得代行サービスの事例:JP ドメインの場合と同じく、レンタルサーバー業者やプロバイダーがアメリカのcom ドメイン管理団体 INTERNIC への申請を代行する。INTERNIC へは2年間契約で100米ドル払う必要があるため、それに手数料を足した程度の料金で取得を代行してくれる。取得したドメインは永久に使えると明記してあるサービスを選んだほうがいい。

社名	ドメイン取得にかかる基本料金	その他	参照URL
HIP	15000円(レンタルサーバー利用、セットアップ料別)	3年目から毎年50ドル	http://www.hip-web.com/index.html
CYBERKIDS	13000円(レンタルサーバー利用、セットアップ料別)	3年目から毎年50ドル	http://ckids.com/main/virtual.html
ペンシル	14000円(レンタルサーバー利用、セットアップ料別)	3年目から毎年50ドル	http://www.pencil.com/com/prise.html

プロバイダーといえども同じルールに従うことになっており、ドメイン名登録サービスに基づいて申請されたドメイン名は、申請者に対して割り当てられた名前であるということになっています。これは、たとえば JPNIC の whois サービスなどで得られる情報を参照してみるとわかるでしょう。(図2)

問題は、トップレベルドメイン名として com というドメイン名を使いたい場合です。

つまり、foo.com

というドメイン名を取得し、

www.foo.com

というWWWサーバーを設置する場合はこれに当たります。

今のところ、com ドメイン名では、jp ドメイン名に比べて制約条件が緩やかであるため、jp ドメインの場合とは異なり、さまざまなケースが考えられます。つまり、これは、各プロバイダーとの契約条件に関わる問題になってくるわけです。いずれにせよ、プロバイダーと契約する際に条件はどうなっており、ドメイン名の所有権は誰が持つのか、契約を解除する際にどのような手続

きが必要なのかはよく調べておくべきでしょう。特に、WWWサーバーとしてプロバイダーが用意するコンピュータを利用する場合、そのサーバー上に置かれるデータの扱い(コピーライトなど)についてはよく確認

しておく必要があります。

結局、利用するプロバイダーとの契約条件に関わってくる問題ですから、実際に利用しようと考えているプロバイダーに問い合わせてみるのがいいと思います。(砂原秀樹)

図 2 whois コマンドでドメインの所有情報がわかる。ここでは、impress.co.jp を検索してみた。

```
(impnews)% whois -h whois.nic.ad.jp impress.co.jp
[ JPNIC database provides information on network administration. Its use is ]
[ restricted to network administration purposes. For further information, use ]
[ 'whois -h whois.nic.ad.jp help'. To suppress Japanese output, add '/e' at ]
[ the end of command, e.g. 'whois -h whois.nic.ad.jp xxx/e'. ]
```

Domain Information: [ドメイン情報]

```
a. [ドメイン名] IMPRESS.CO.JP
f. [組織名] 株式会社 インプレス
g. [Organization] Impress Corporation
h. [郵便番号] 102
i. [住所] 東京都 千代田区 三番町 20
j. [Address] 20 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 102, Japan
k. [組織概要] 株式会社
l. [Description] Corporation
m. [運用責任者] MI010JP
n. [技術連絡担当者] KI038JP
p. [ネームサーバ] impgw.impress.co.jp
p. [ネームサーバ] ns1.ii.ad.jp
s. [使用IPネットワーク] 192.218.90.0-192.218.91.0
[状態] Connected
[割当年月日]
[接続年月日]
```

```
[最終更新] 94/08/19 16:36:33 (JST)
tony-o@ii.ad.jp
```



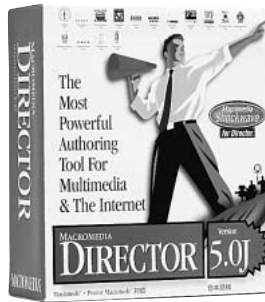
最近では、ショックウェーブや JAVA といった新しいテクニックが回ってきました。そのショックウェーブというのは「Macromedia Director」というソフトを使って作ると聞きました。でもそのソフトはとても高価なものです。そこで、安価なもので、ショックウェーブを作れるソフトはないでしょうか。教えてください。

(SASUKE さん)

A. ショックウェーブは、マクロメディア社の各種アプリケーション (Director、FreeHand、Authorware、Flash、xRes、SoundEdit 16) で作成されたアニメーション、グラフィック、テキスト、オーディオを WWW ブラウザーに直接表示したり再生したりする技術で、ネットスケープナビゲーター、インターネットエクスプローラ用のプラグインソフトとして提供されています。現在ではデータ形式ごとに個別のプラグインがあり、「Shockwave for Director 5.0J」「Shockwave for FreeHand」などと呼ばれます。

したがって、それぞれに対応したアプリケーションソフトを使ってコンテンツを作成するのが標準的な方法です。アプリケーションによってできるコンテンツの形式や必要となるショックウェーブプラグインが異なり、作成目的に合ったアプリケーションを用意しなくてはなりません。また、他社製品でショックウェーブと互換性のあるコンテンツが作成できるソフトはまだ見あたりません。ご質問の作りたいコンテンツは Director のアニメーションでまがいがありま

写真 高くて手が出ない Macromedia Director 5.0J



せんか。

マクロメディアにはベクターデータのアニメーションを作成するアプリケーションソフト「Macromedia Flash」もあります。こちらは、特別版が2月19日から19,800円で販売されていて作り始めるにも手頃な価格です。試用版も提供されているので、Flashであるかを確認するといいいでしょう。

さて、Macromedia Director は最新版がバージョン5 (英語版バージョン6は3月発売) で、10万円を超える価格で販売されています。しかし、ショックウェーブ対応のコンテンツ作成にはバージョン4も利用でき、在庫品ならばもう少し安く購入できるかもしれません。また、昨年12月に本数限定で販売された「Macromedia Director 4.0J Plus」では Macromedia Director

4.0J for Macintosh & Power Macintosh、Macromedia FreeHand 5.5J 体験版、Macromedia Authorware 3.5J 体験版、各種ショックウェーブ・プラグイン、作成したデータをショックウェーブ用に圧縮させるソフト Afterburner、Shockwave マニュアルがセットになって49,800円で販売されました。

ソフトウェア・トゥー社の「Internet DesignTool FREEHAND 5.0J および Shockwave 体験キット」(48,000円)では、ドロー系グラフィックツール Macromedia FreeHand 5.0J を中心に、Shockwave Plug-in、Shockwave のチュートリアルとマニュアル、MACROMEDIA 公式 Shockwave for Director ガイド、CD-ROM 「これなら出来るホームページ」、Macromedia Director 4.0J 体験版、Macromedia Authorware 体験版をセット販売しています。体験版では制限があるものの、コンテンツを作成することができます。これらの格安パックではアップデートができない条件がつくこともあるため、最終的には最新版が旧版を購入して正規ユーザー登録を行ったほうがいいでしょう。

さらに、バージョン4ではストリーミングオーディオはサポートされていないなどの違いがあるのでまったく同じコンテンツは作れないかもしれません。(菊地宏明)

関連 URL

「Macromedia Flash」試用版の提供元

URL <http://www-asia.macromedia.com/software/flash/>

「Macromedia Director 4.0J Plus」の情報

URL <http://www-asia.macromedia.com/jp/macromedia/pr/1996/dr4jplus.html>

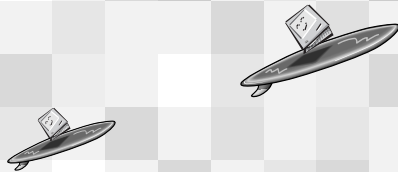
ソフトウェア・トゥー社の情報

URL <http://www.swtoo.com/>



入門者のための

FAQ



私は1台のパソコンでそれぞれメールアカウントを持った家族が電子メールを使うことを想定しております。メールソフトでこのような使い方をする場合の設定の方法を教えてください。

(匿名希望)

Windows家の場合

父はEudora、母はマイクロソフトインターネットメール、息子はAL-Mailで、その妹はBecky!



A. Eudora Pro 3.0-Jのウィンドウズ版では、複数のメールアカウントを持っているユーザーが利用できる機能が備わりました(図6)。これを使えば、ユーザー別に、個別のPOPサーバー/SMTPサーバーにアクセスし、アカウントを使い分けすることができます。この機能はマッキントッシュ版にはありません。

次に考えるべきことは、読み終えたメールの管理です。先の複数アカウントのサポート機能は1人が複数アカウントを持って

いる場合を想定するものであって、複数ユーザーで1つのメールソフトを共有することを考えたものではありません。1つのメールソフトを複数ユーザーが共有すると、各自に電子メールをフォルダーに保存する処理を任せることになります。そのときはもちろん1台のパソコンを共有しているわけですから、手紙を読まれる程度のプライバシーが犠牲になるのは止むをえません。しかし、自分の手紙をどこかのフォルダーにいつのまにか移動させられたらどうでしょう。

留守中に自分の机の上を無断で整理されたときのような、苛立たしさを感じません。そこで、お互いがその点を干渉しないように、自由に電子メールを使う単純な方法があります。

それは、まったく互換性のない電子メールソフトを複数インストールして使うのです。POPサーバー/SMTPサーバーの設定情報やフォルダーとしてメールを蓄積するディレクトリー位置も変えれば、お互いに干渉することなく使えます。もちろん、設定ファイルを複数作成できるのなら、1つの電子メールソフトを異なるディレクトリーにいくつかインストールすることで、このような環境が作れるかもしれません。

さらに、ファイルシステムでアクセス制限ができるのであれば、個人のディレクトリー下にメールを保存することで、手紙を読まれるプライバシーも守ることができます。筆者はこの方法でプライベート用、仕事用のアカウントを使い分けていますが、なかなか快適です。

あとは、誰がお気に入りのソフトを使うかもめないように祈りましょう。

(菊地宏明)

図 6

Eudora-Pro3.0J試用版。複数アカウントの設定は、オプションメニューのパーソナリティで設定する。マック版ではこの機能はないが、「Eudora設定」ファイルを複数作り、それぞれ+のエイリアスを置いておく方法をマニュアルで解説している。



Eudora Pro 3.0-J 試用版の入手先

URL <http://www.kuni.co.jp/product/eudora30/index.htm>



最近ネットニュースを見ていると、「japan.*」というニュースグループがたくさん見受けられます。テーマや内容も「fj.*」とあまり変わらないように思うのですが、「japan.*」と「fj.*」ではどう違うのでしょうか。

(匿名希望)

A. fjは1984年に開始されて以来、世界規模のものとしては唯一の日本語が使えるNetNewsとして大きく発展してきました。fjはもともと学術的な実験から開始されたこともあり、比較的厳格なポリシーのもとで運用されてきました。そのfjの厳格なポリシーから離れ、もっと自由な場が欲しいという人たちが1996年に開始したのがjapanです。したがって、japanもfjも日本語を主として用いる場で世界中に配布されるという点は同じですが、そのポリシーは大きく異なります。

第一に、fjは基本的に営利目的の利用は不可です。具体的にはfjに商品の広告や企業の求人情報を出すことはできません。こ

れに対して、japanは商用利用が可能で、広告や求人を出すためのグループなどがあります。そのため営利利用に敏感な大学などではjapanを読まないようにしているところもあります。

第二に、fjでは新しいグループを作るのが比較的大変です。その方法は、「ニュースグループ管理の手引き」(NGMPと呼ばれることが多い)という長い文書によって厳密に決められ、NGMPの運用は選挙で選ばれるニュースグループ管理委員会によって行われます。fjでは、グループの提案から作成まで1か月かかるのは普通で、議論が長引けば半年以上かかることもあります。

これに対してjapanは手続きが簡単で、基本的に提案から1~2週間で新しいグループが作成できます。この方式は簡単でいいのですが、たいした議論もなしで個人個人が勝手に新しいグループを新設できるので、グループ構成が統一されなかったり、あまり使われないグループが増えたりという欠点もあります。

最後に、fjでは他人の記事を削除することは認められていません。japanではニュースシステムの運用上支障をきたす記事など

はただちに削除されます。また、そういう記事でなくても、削除の提案をして1週間反対がなければ他人の記事を削除できます。これは最近特に増えた鼠講まがいの記事やspamと呼ばれるグループを選ばない大量投稿などに対処するためにある方針です。

以上、ポリシーの違いを見てきました。そのほかに、実際のグループ構成にもいろいろ違いが見られます。たとえばfjではあまり見られない(とはいえ別にfjで禁止されているわけではない)ポルノ画像やロリータの話などがjapanでは見られます。また、おしゃべり・あいさつ・茶々入れ・突っ込み・愚痴・内輪話などの気軽な会話のためのグループが充実しているのもjapanの特徴です。基本的にjapanには楽しいグループが多く、fjにはまじめなグループが多い傾向があるようです。

利用者数や投稿数などは現在のところ、まだfjのほうがずっと多いですが、これからはjapanの利用者もどんどん増えていくことでしょう。将来は、fj、japanともにそれぞれの利点を伸ばし、相補する形で発展していくものと思われます。

(滝川雅巳)

参考文献

fjについて

URL <http://www.cs.orst.edu/~takikawm/fj/>

japanについて

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~AE5T-KSN/japan.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp